

# 聖徳スタイル

vol.3

## 礼法を身につけることの意味。

聖徳中・高の卒業生と話をするたびに「聖徳で学んで何が良かったですか？」と、質問しています。さまざまな答がありますが、いくつか挙げてもらう中に必ず出てくるのが「礼法を学べたこと」という回答です。

聖徳中・高では週1回、正課の授業として「小笠原流礼法」を学んでいるのです。

礼法と聞くと古めかしいものと思われる方も多いようですが、決して時代に逆行するものではありません。礼儀作法や立ち居振る舞いといった「形」を学びながら、その根底にある「相手を思いやる気持ち」「伝統や美意識とそこに秘められた無限の知恵」を学ぶことは、現代生活にも大きな価値があり、女性としての魅力を磨くことにつながります。こうした礼法を学ぶ意味を、生徒たちはどのように理解しているのでしょうか。実際に授業を受けている生徒の声を聞いてみました。

### ●「礼法の授業のどんな点が好きですか？」〈中学生の回答〉

「日常生活で使えることが身につくのが、好きな点です。お辞儀の仕方や玄関の上がり方、座り方や立ち方など、知ってるつもりでもできないでいたことがたくさんあり、それがきちんとできるようになりました。」

「親戚や知人にも『礼儀正しいね』『挨拶やお辞儀がちゃんとできるね』と誉められます。」

「高校の先輩はお辞儀がすごくきれいです。自分もあんなふうになりたいと思います。」

「親戚などの結婚式に、自分で和紙を選んで折って、のしや水引を作って、心を伝える祝儀袋を作れるようになりました。これってすごいと思います。」

「知らないことをたくさん学べるので、授業のたびに『へえ』と思うこともあり、得した気分です。」



## ●「礼法の授業のどんな点が好きですか？」〈高校生の回答〉

「お箸の使い方が上手になりました。食器の並べ方やマナーも知っていますから、お母さんに『箸の置き方がちがうよ』なんて教えてあげることもあります。」

「礼法では習っていないことでも、マナーに気をつけるようになりました。」

「みんな食事の仕方や礼の仕方がきれいです。無意識のうちにできていて、姿勢もいいし、同じ聖徳の生徒だとすぐわかります。」

「先生も熱心に指導してくださって、質問にもていねいに答えていただけます。私たちもテスト前になると放課後、自主的に練習したり、みんな熱心です。」

「ゆかたが自分で着られるようになったことです。着くずれても直せるし、きれいに歩けるし、畳めるし、こういうのは自慢できますね。」

「マナーや立ち居振る舞いがきれいな人を、かっこいいと思うようになりました。ルーズなものが流行っているけど、ちゃんとした美意識が持てると思います。」

---などなど、とてもたくさんの声を聞くことができました。

ちなみに「楽しいですか？」という質問してみたところ、みんなが「楽しいです」と即答してくれました。授業では生徒からの質問が飛び交い、先生とのやりとりが楽しいそうです。どんな作法にも理由があって、それを理解して身につけるのは「得した気分になれる」という声もありました。

では礼法の心「相手を思いやる気持ち」は、どのように身につくのでしょうか。そもそも、礼法自体が相手への思いやりや敬意を示すものであり、授業の中で「思いやりなさい」と教えているわけではありません。そのあたりを高校生に聞いてみました。

「思いやる気持ち、やさしさというのは、もう校風になっていると思います。礼法を習ってきた先輩が校風を作ってきて、後輩は礼法を習いながら校風として思いやりを身につけていくということですね。だから普段から意識しているわけではないけれど、みんなやさしいです。」

聖徳らしさ、というものの底流に「礼法」が脈々と流れていることを、改めて確認できました。この礼法の授業で教わるプログラムは、説明会などでお配りする「聖徳ガイドブック」に記されているので、ぜひご確認ください。

お話を聞かせてくれた生徒のみなさん。



本校では、中学修了時には「若紫の傳(わかむらさきのでん)」、高校修了時には「花鬘の傳(はなかづらのでん)」、さらに上級の試験に合格した生徒には「花鬘の正傳(はなかづらのしょうでん)」が授与されます。

各許状とも卒業証書授与式で小笠原礼法宗家から直接授与されるもので、履歴書に記載できる資格となります。